

ボ
ン
ク
リ

BORN
CREATIVE
FESTIVAL
2017

イベントプログラム

主催：東京芸術劇場
(公益財団法人東京都歴史文化財団)

世界中の「新しい音」が
聴ける 1day フェス!

クレア・チェイス

ボンクリ・フェス2017

デヴィッド・シルヴィアン

2017
5月4日

(木・祝)

坂本龍一

アーティスマン
エド・エ
ヤン・バンゲ
藤倉大(作曲家)

リュック・フェラーリ

ヤン・バンゲ

本條秀憲郎
ポーリン・オリヴェロス

イルマ・オスノ

藤倉大

檜垣智也

ブルーノ・マデルナ

笹久保伸

東京
芸術
劇場

Tokyo
Metropolitan
Theatre

小林沙羅

村治奏一

大友良英

永見竜生 [Nagie]

アンサンブル・ノマド
伶楽舎

福川伸陽

ニルス・ペッター・モルヴェル
武満徹



本日は、「Born Creative」Festival（ボンクリ・フェス）2017 にご来場いただきまして、誠にありがとうございます。

この度、新たな企画として開催する本フェスティバルは「今の時代の音楽をより多くの人々に楽しんでいただきたい」という思いから、世界的に活躍する作曲家 藤倉大氏をアーティストック・ディレクターに迎えました。藤倉氏がその融通無碍な感性で選んだ「世界中の新しい音」を、赤ちゃんからシニアまであらゆる人々に楽しんでいただくという企画です。

このフェスティバルが、既存のルールに縛られない、「新しい音楽」への扉を開き、子供の頃のセンス・オブ・ワンダー（不思議への感性）を呼び戻すきっかけになればと願っています。また、社会全体でクリエイティビティの必要性が高まってきている中、このフェスティバルが、人間の創造性を高めるために芸術が果たす役割について考える機会になれば幸いです。

同時期にシアターイーストとシアターウエストを中心に開催する「TACT/FESTIVAL」、劇場前広場で開催する「集まれ！池袋みんなの大道芸」も合わせ、ゴールデンウィークの東京芸術劇場には、クリエイティブなエネルギーがみなぎっています。どうぞ、ご家族皆さままでお楽しみください。

最後に、本公演の実現のためにご協力いただきました全ての皆様に、厚く御礼申し上げます。

ボンクリ・フェス 2017
 “Born Creative” Festival 2017
 2017年5月4日（木・祝）

主催



東京芸術劇場（公益財団法人 東京都歴史文化財団）

助成



平成 29 年度 文化庁 劇場・音楽堂等活性化事業

公益財団法人 **花王 芸術・科学財団**

公益財団法人 **ロームミュージックファンデーション**

協力

KAJIMOTO

アーティストック・ディレクター
 藤倉大

プロダクション・マネージャー
 關秀哉

舞台監督
 山貫理恵
 （ニケステージワークス）

音響オペレーター
 小内弘行
 （懶ジョイサウンドプロモーション）

映像技術
 阿達直樹

サウンドデザイン
 永見竜生 [Nagie]

グラフィックデザイン
 田中良治、有本誠司
 （セミトランスペアレント・デザイン）

イラスト
 Milena Mihaylova

楽譜制作協力
 進藤駿音

東京芸術劇場スタッフ

プロデューサー
 鈴木順子

技術統括
 白神久吉

技術統括補・音響
 石丸耕一

舞台
 鈴木久仁日呂、秋山佑子

照明
 大野隆寛、中野雅也

音響
 石川正通、北澤達子

制作
 横堀応彦、曾宮麻矢、首藤明彦

運営
 出口マミ、中村よしき
 鋤田千里、今井俊介

広報
 前田圭蔵、久保風竹、安田裕美

票券
 井上由姫、奥村和代

「ボーン・クリエイティブ」、略して「ボンクリ」。

これは、「人間は皆、生まれつきクリエイティブだ」という意味。

数年前から僕がやっている福島県相馬市での作曲教室では、5歳から高校生までを対象に世界から現代音楽のエキスパートの演奏家を迎えて特殊技法等のみっちり紹介し、その場で子供達が新しい音楽（現代音楽と呼ぶ人も多いかも知れない）の作曲をする。しかもすべての音や指示を楽譜にきちんと記し、自分の作曲した作品をその場でプロの演奏家に演奏してもらう。子供達が作曲中、演奏家は子供達が作品の一部を確認したり、コラボレーションし、アイデアを楽譜にするために待機し、直ぐに試演できるスペシャルな環境を作っている。

この作曲教室を何年か継続していてわかったことは、全ての人間は子供の頃、「新しい音楽」「新しい音」、そして5歳の子供の言葉を借りると「変な音」が好きだったということだ。

なぜかそのクリエイティビティは成長するにつれ、失われていく。

この「ボンクリ」は、大人になっても5歳の子供のままクリエイティブでいる人達の作品を、0歳の子供から大人まで楽しめる新しい音楽に触れるためのイベント。演奏家と共に参加し、一緒に音楽を作るワークショップもあり、即興音楽もあり、日本の伝統音楽である雅楽も、エレクトロニクス(電子音楽)も、現代音楽アンサンブルもあり、ペルー音楽も、オーケストラ作品もある。丸1日、東京芸術劇場館内に「新しい音楽」が満ち溢れる。一生分、少なくとも1年分の“世界中の新しい響き”を堪能することができるまたとない機会。5月4日は是非芸術へ！



藤倉大 Dai Fujikura

作曲家/ボンクリ・フェス 2017 アーティスティック・ディレクター

1977年大阪生まれ。15歳で渡英し、エドウィン・ロックスバラ、ダリル・ランズウィック、ジョージ・ベンジャミンに師事。ハダースフィールド国際音楽祭作曲家賞、ロイヤル・フィルハーモニック作曲賞、国際ウィーン作曲賞、パウル・ヒンデミット賞、尾高賞、芥川作曲賞、中島健蔵音楽賞、エクソンモービル賞をはじめ、数々の著名な作曲賞を受賞。ザルツブルグ音楽祭、ルツェルン音楽祭、BBCプロムス、バンベルク響、シカゴ響、アンサンブル・アンテルコンタンポラン、シモン・ポリバル響、アルディッティ弦楽四重奏団などから作品を委嘱され、国際的な共同委嘱もますます増えている。ブーレーズ、エトヴェシュ、ノット、ドゥダメル、アルミンク、リープライヒ、井上道義、山田和樹らが藤倉の作品を初演・演奏している。録音は、NMC、commons、KAIROS から作品集が、楽譜はリコルディ社から出版されている。2017年「ヴェネツィア・ビエンナーレ」音楽部門銀獅子賞を受賞。

<http://www.daifujikura.com/>

10：50—10：55 アトリウムボックスオフィス上ステージ 1F

メシアン

『峡谷から星たちへ』より第6曲「恒星の呼び声」

出演

福川伸陽 ホルン

12：00—12：30 アトリウムロワー広場内ステージ B1F

藤倉大

ゆらゆら

福川伸陽 ホルン

池辺晋一郎

『ホルンは怒り、しかし歌う』から抜粋

藤倉大

ポヨポヨ

13：30—14：00 アトリウムロワー広場内ステージ B1F

ロバートHP ブラッツ

線香花火

東野珠実* 笙

藤倉大

neo

本條秀慈郎 三味線

清元栄吉

『望郷』より「トルコ行進曲」

中村仁美* 箏

高橋悠治

『微かに』より「ホタル」

本條秀慈郎 三味線

15：00—15：30 アトリウムロワー広場内ステージ B1F

ベリオ

シークエンツァV

今込治** トロンボーン

伊佐治直

舞える笛吹き娘

中村仁美* 箏

ドナトーニ

NIDI I

木ノ脇道元** ピッコロ

石川高

兆し(きざし)

石川高* 笙

16：30—17：00 アトリウムロワー広場内ステージ B1F

西村朗

玉響

村治奏一 ギター

村治奏一

虹

藤倉大

チャンス・モンズーン

17：05—17：10 アトリウムボックスオフィス上ステージ 1F

メシアン

『峡谷から星たちへ』より第6曲「恒星の呼び声」

福川伸陽 ホルン

※都合により時間・出演者・曲目・曲順等が変更になる可能性があります。

* — 伶楽舎メンバー

** — アンサンブル・ノマドメンバー

リュック・フェラーリの部屋

時間

11:00 ~ 18:00 入退場自由

会場

アトリエイースト 地下1階

監修

檜垣智也

主なプログラム

リュック・フェラーリ Luc Ferrari

「逸話的なものたち」

「ほとんど何もない」シリーズ

「パリー東京ーパリ」他

またリュック・フェラーリのサウンド・アーカイブを使用した檜垣智也の新作、ブリュンヒルド・フェラーリ、佐藤亜矢子、永松ゆか、渡辺愛らによる音響作品を特別再生。

パリを生活の拠点としていた作曲家・リュック・フェラーリは、創作のために生涯に渡って世界中を旅しました。生涯を終えたのも旅先で、イタリアの小都市アレツォでした。その旅の多くに伴侶のブリュンヒルドは帯同し、リュックの創作にも深く関与しながら、彼を支え続けます。旅先で彼らはいつも、その場所を愛できるように音を採集し、名もなき市井の人の声に寄り添いました。そしてリュックはそれらを持ち帰って作品を編み、ブリュンヒルドは世界に向けてオープンしていきます。いつも二人三脚で生活し、旅し、創作し、音楽活動を行っていたのです。だからでしょうか、彼らの音楽とアクティビティからは、この世界を包み込むやさしさと大きな愛を感じることができます。そこで「リュック・フェラーリの部屋」では「音による想像上の世界旅行」というテーマで、彼らのやさしさと愛に満ちた旅で集めた音を使って作られた電子音楽作品から厳選してお届けします。この世界旅行は、赤ちゃんから大人まで誰でも、そしていつでも気軽に出入りできます。ボン・ボヤージュ！

【関連企画】エル・システム作曲教室

時間

11:00 ~ 13:00 事前申込制

会場

リハーサルルームL 地下2階

講師

蒲池愛

中川俊郎

本條秀慈郎

共催

一般社団法人エル・システムジャパン

特別協賛

LVMH モエ ヘネシー・レイ・ヴィトン・グループ

数年前から福島県相馬市で開催されてきた「作曲教室」を、東京で初めて開催します。作曲家や演奏家によってデモンストレーションされる様々な音の中から、自分が好きな「ヘンな音」を見つけ、大人の力を借りずに自分の作品を作り上げます。この「作曲教室」を通じ、子どもたちの "Born Creative" な能力を引き出します。また、「ヘンな音」を見つける作業にも、自分の作品を作る作業にも、自分がどうしたいのか、何が好きなのか、心の声を素直に聴くことが不可欠です。自分の心の声に耳を澄ますことで、子どもには自分の好きなことを自分で探究する力がつき、それは音楽の作曲だけでなく、子どもが自らの人生を切り開く上で役に立つ力になると考えています。

ワークショップ・コンサート

会場

シンフォニースペース 5階

※5階・1階・地下1階の中継スクリーン・中継ビジョンで同時中継いたします。

事前申込制

(一部当日参加受付有)

「ポーリン・オリヴェロスの部屋」

時間

11:00 ~ 11:50 10:45 開場

演奏

クレア・チェイス

翻訳・通訳

内山史子(東京都現代美術館育成支援課)

演奏予定曲目

ポーリン・オリヴェロス Pauline Oliveros

Thirteen Changes

Sounds from Childhood

The Tuning Meditation

Old Sound New Sound Borrowed Sound Blue

惜しくも昨年逝去したアメリカの女性アコーディオン奏者／作曲家ポーリン・オリヴェロスの音楽を、生前最も近い存在だったフルート奏者クレア・チェイスがワークショップ形式で紹介します。



「ペルー音楽の部屋」

時間

12:30 ~ 13:20 12:15 開場

演奏

イルマ・オスノ

協力

笹久保伸

演奏予定曲目

ワイノ(伝統的な歌・舞曲)

ハチュア(脱穀の仕事歌)ほか

今回のワークショップでは「アンデス音楽はどこからやってくるのか」というのを1つのテーマにしています。イルマ・オスノの出身地域であるアヤクーチョの伝統的な脱穀の仕事歌を題材にし、参加者のみなさんと実際に脱穀作業をやりながらそこで生まれる「音楽」「世界観」を体感・共有したいと思います。



「ノルウェーの部屋」

時間

14:00 ~ 14:50 13:45 開場

演奏

ヤン・バング&ニルス・ベッター・モルヴェル

エレクトロニカ・シーンを牽引する音楽家ヤン・バングとノルウェーの前衛トランベッター、ニルス・ベッター・モルヴェルが北欧ジャズ／エレクトロニカの魅力を紹介するコンサートです。

「三味線の部屋」

時間

15:30 ~ 16:20 15:15 開場

演奏

本條秀慈郎

演奏・協力

桐朋学園芸術短期大学音楽専攻日本音楽専修 三味線卒業生／
在学生有志、慈連間 有志

三味線のごから現在に至るまで、そしてさらに楽器のこれからの創造するような、コンサート形式のレクチャーです。たった三本の弦で紡ぎ、まるで“時空をタイムワープされたかのような音の世界”に誘います。誰でも三味線を体験できるコーナーも用意しました！ そう、これはまさに藤倉大が創造するボンクリフェス体内の日本の響きと言えるでしょう。

演奏予定曲目

傳【つたわる】～

高田新司 歌垣 -UTAGAKI-

古【いにしへの】～

作曲者不詳 《糸竹初心集》より「小倉踊り」

重【リンクする】～

J.S. バッハ《無伴奏チェロ組曲第2番》ニ短調 BWV1008 より

「サラバンド」

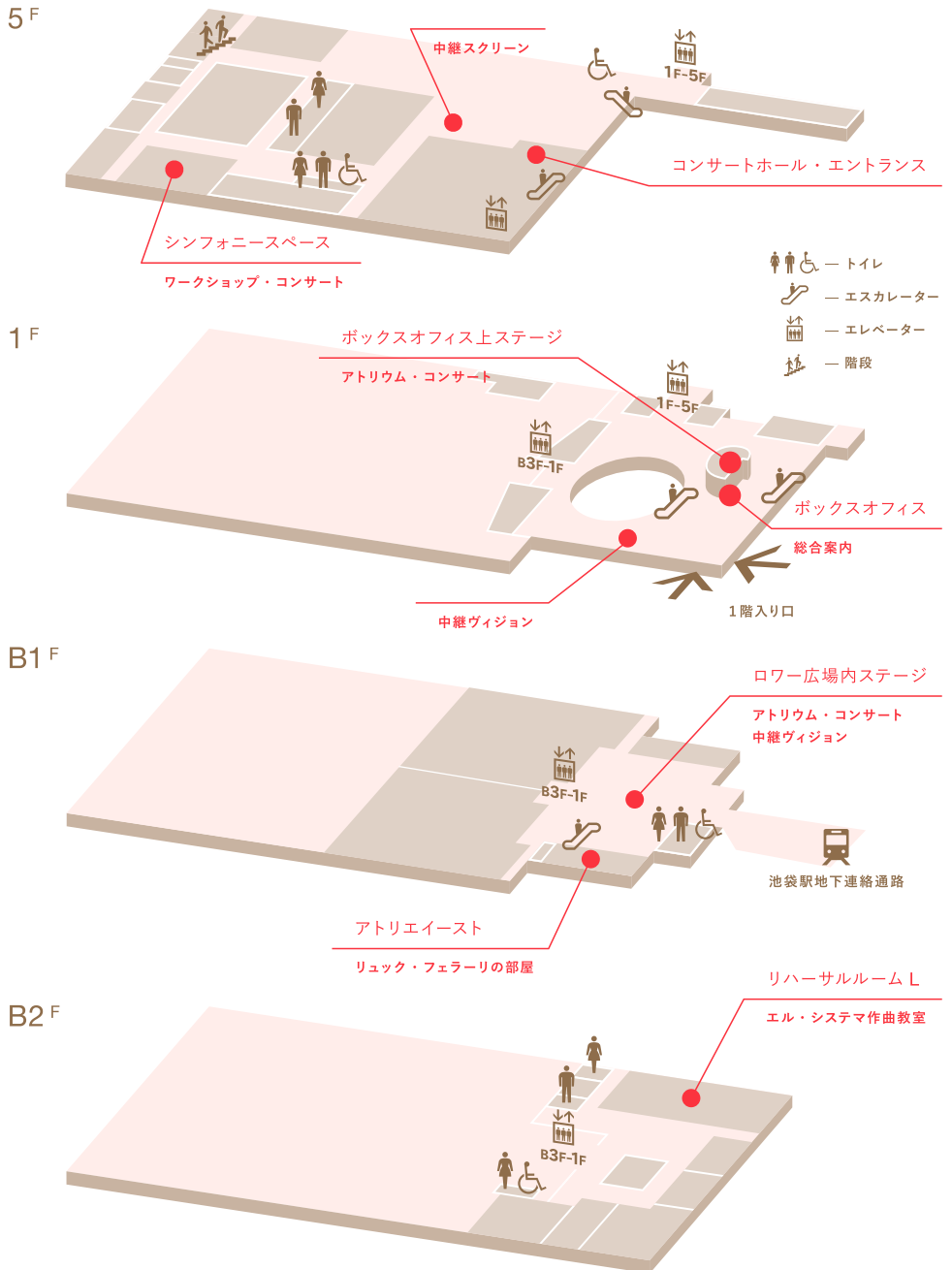
現在【いま】～

藤倉大 neo (音緒)

ほか



フロアマップ



タイムテーブル

	5F—7F コンサート ホール	5F シンフォニー スペース	B2F リハーサル ルーム L	1F アトリウム ボックスオフィス上 ステージ	B1F アトリウム ロワー広場内 ステージ	B1F アトリエ イースト	5,1,B1F 中継スクリーン 中継ヴィジョン
	スペシャル・ コンサート	ワークショップ・ コンサート	エル・システム 作曲教室	アトリウム・コンサート		リュック・フェラーリ の部屋	ライブ・ビューング
	事前申込制ワークショップ (一部当日参加受付有)			無料イベント			
10. :00							
		開場					
11. :00		ポーリン・ オリヴェロスの部屋	エル・システム 作曲教室	福川伸陽(ホルン)		リュック・フェラーリ の部屋 (入退場自由)	ポーリン・オリヴェロス の部屋(同時中継)
12. :00		開場			福川伸陽(ホルン)		
		ペルー音楽の部屋					ペルー音楽の部屋 (同時中継)
13. :00		開場			本條秀彦郎(三味線) 東野珠美(笙)* 中村仁美(箏業)*		
14. :00		ノルウェーの部屋					ノルウェーの部屋 (同時中継)
15. :00		開場			今込治(トロンボーン)** 木ノ脇道元(ピッコロ)** 中村仁美(箏業)* 石川高(笙)*		
		三味線の部屋					三味線の部屋 (同時中継)
16. :00							
	ロビー開場				村治奏一(ギター)		
17. :00		開場		福川伸陽(ホルン)			
	17:30 開演 スペシャル・ コンサート	スクリームの部屋 スペシャル・コンサート 同時中継					
18. :00							
19. :00							

* — 伶楽舎メンバー

** — アンサンブル・ノマドメンバー

時間

17:30 開演 16:30 ロビー開場

1 | デヴィッド・シルヴィアン & 藤倉大
Five Lines, The Last Days of December

ライブ版世界初演

この作品は僕とデヴィッド・シルヴィアンが長年かけて、毎日メールしあい、ニューヨークで録音し、お互いにおそらく尊敬しながらも時には大喧嘩もして(笑)、やっとできた共同作曲作品の2曲。僕は日本で中学生をしている時からデヴィッド・シルヴィアンのファンだ。ずっと一回で良いから一緒に仕事をしてみたいな、と夢みていたら、一回お会いすることができた。そこで僕の音楽を彼が聴き、時には1日4通くらいのメールのやりとりをほぼ毎日するほど仲良くなった。楽譜を読まないデヴィッドにどうやって今作っているこの共同作曲の作品の自分の部分を彼に聞かせるか、をとっても悩んだのを思い出す。ニューヨークに行つて録音し、歌の部分はデヴィッドが作曲したのだが僕が悪い描いていたのとは全く違う、でもデヴィッドの方が(当たり前ながら)数倍良い!デヴィッドは昔から自分の作品がヴォーカリストとしての作品ではなく、クラシックの作品みたいに、自分が舞台上に立たずに作曲者として作品が演奏されたい、と常に言っていたのを思い出した。それで、今回は音域から声質から全くデヴィッドと違う小林沙羅さんの声で歌ってもらいます(デヴィッドはこの事をとても喜んでいたり、今回の為にこの2曲を楽譜にしたのだが、それを見て「美しい」と読まない楽譜を見ながら言っていた。楽譜起こしも大変だったけど僕もそう言ってもらえて嬉しかった)。作曲家としてのデヴィッド・シルヴィアンを聞いてみてください。

2 | 坂本龍一
tri
ライブ版世界初演

坂本龍一さんはもうここ何年も仲良くさせていただいて、結構定期的にメールでお話する事もあります。おそらく坂本龍一さんの作品はご本人曰く「自分より、よく知っている」というほど僕はかなり詳しく昔から(中学生の時から)聴いて知っています。今回もこのボンクリ・フェスを考えていた時にたまたま坂本さんのこの作品の楽譜について僕に質問されたのでこの作品の存在を僕は知る事ができました。結構歳下の僕なんか質問をさらっとする所が坂本さんのすごい所。楽譜を見るとすごく緻密に書かれた現代音楽作品。これがコンサートホールでどう響くか、すごく楽しみ。

3 | 武満徹
『秋庭歌一具』より 第4曲「秋庭歌」

この作品は僕にとって武満作品で一番好きな曲です。海外CDリリースでは、ずっとこの4曲目だけがリリースされていた。これが最初に書かれたメインの作品だと思う。よってその思い入れのあるこの曲を今回入れました。

会場

コンサートホール

4 | 「秋庭歌」ライブ・リミックス

このライブリミックス、というのは僕が最初に知ったのはヤン・パンクが主催するノルウェーの即興音楽祭「ブント」でなぜか僕の個展をしてもらった時だ。おそらく僕の作品のみ「譜面台」が必要なコンサートだったのだろう。その時は僕の娘が生まれる時だったので僕は聴きに行けず。その数年後もう一回今回は僕を演奏家(キーボード)として呼んでもらい、その時にこのライブリミックスを初めて体験+演奏した。全てがライブなので、この演奏の前に演奏された素材(今回は「秋庭歌」)が変調されるだけではなく、僕が今弾いた音が延長上に鳴っていたり、など。こういう音楽の作り方もあるのか!と新鮮だった。それを今回ここでできたらな、と思いました。

| 休憩(20分)

5 | ブルーノ・マデルナ
ひとつの衛星のためのセレナータ

この作品は僕の尊敬するノマドの指揮者/ギタリストである佐藤紀雄さんの提案です。佐藤さんはこの作品を何回も演奏なさっているようで、即興でありながら書かれている部分もある、美しい雰囲気を出す作品です。

6 | 大友良英
新作
世界初演

大友良英さんは単に僕が個人的なファンでありました。デヴィッド・シルヴィアンのリミックスなんかをした時に渡されたデータにOtomoと書かれたトラックがあったり、「あーこれがあの大友良英さんの演奏したトラックか!」と思いながらいじったりしてましたのです。大友さんも欧州の現代音楽祭などでよく出演していらっやっていて、実は2005年のドナウエッシンゲンでも2016年のブリュッセルの音楽祭でもちょうど僕のコンサートの次の日、とか直後、直前などで、ニアミスで今でも実際にはお会いしたことがありません。今回も何かこのフェスで演奏できる作品はありませんか?とお尋ねした所、「せっかくなので新しい曲書いていいですか?」とおっしゃっていただき、楽しみにしています。

7 | 坂本龍一（藤倉大編曲）
thatness and thereness
アンサンブル版世界初演

僕は他の人の音楽をオーケストレーションする事はまずありません。ですが、前回坂本龍一さんのバレエ・メカニックのオーケストレーションをしたのに続いてこの作品をオーケストレーションしました。バレエ・メカニックのオーケストラ版を一人で聴きに行った僕の母は「あー、よく大の部屋から流れていた音楽だった」と言っていたが、これもその「よく流れていた」音楽が原曲だ。美しいワルツなのに、ブチっという太いアナログシンセが原曲。それをどうアンサンブルで表すか、を念頭にオーケストレーションしました。かなり原曲に忠実にやったつもりです。

8 | 藤倉大
フルート協奏曲
アンサンブル版日本初演

この作品は僕の大親友フルート奏者クレア・チェイスに書いた協奏曲。名古屋フィルで僕のコンポーザー・イン・レジデンスが決まった時に真っ先にクレアに協奏曲書かせてください、と名古屋フィルをお願いして実現した。オーケストラ版とアンサンブル版と2つあり、アンサンブル版が日本で演奏されるのはこれが初めて。初演は2015年12月だったにも関わらずもう5回くらいいろんな所で再演されている。クレアはアメリカのアンサンブルICEのメンバーであり、そのICEと録音したのがこのコンサートの冒頭のデヴィッド・シルヴィアンとの共同制作作品。ヤン・バングとはシルヴィアンとのリミックスで僕と一緒に参加していて、大友さんとは間接的にリミックスで関わっている。ノマドは僕に日本で初めて委嘱されたのを演奏して下さった楽団（のちにその作品Abandoned TimeはICEによって録音されリリース）。こうして演奏家達の面でも直接的、間接的に繋がっているこの曲目。是非お楽しみに！

1 | David Sylvian & Dai Fujikura
Five Lines, The Last Days of December
2 | Ryuichi Sakamoto
tri
3 | Toru Takemitsu
In an Autumn Garden
4 | "In an Autumn Garden" Live Remix
5 | Bruno Maderna
Serenata per un Satellite
6 | Yoshihide Otomo
new work
7 | Ryuichi Sakamoto (arr. Dai Fujikura)
thatness and thereness
8 | Dai Fujikura
Flute Concerto (Ensemble Version)

出演

アンサンブル・ノマド（指揮：佐藤紀雄）[1, 2, 5～8]
Ensemble Nomad (Conductor: Norio Sato)

小林沙羅（ソプラノ）[1]
Sara Kobayashi (Soprano)

伶楽舎 [3, 5]
Reigakusha (Gagaku Ensemble)

ヤン・バング（エレクトロニクス）[4]
Jan Bang (Electronics)

ニルス・ペッター・モルヴェル（トランペット）[4]
Niils Petter Mølvær (Trumpet)

藤倉大（エレクトロニクス）[4]
Dai Fujikura (Electronics)

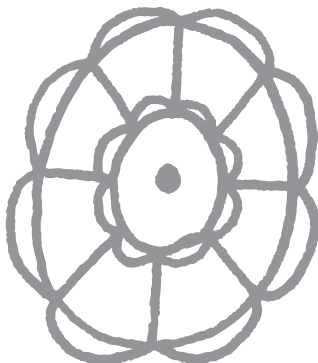
大友良英（ターンテーブル）[6]
Yoshihide Otomo (Turntable)

クレア・チェイス（フルート）[8]
Claire Chase (Flute)

スクリームの部屋

時間：17:30 開演（17:00 開場）
会場：シンフォニースペース 5階

未就学児をお連れのお客様を対象に、コンサートホールでおこなうスペシャル・コンサートを同時中継いたします。コンサートホールにお入りいただけない小さなお子さまと、一緒に「ボンクリ」音楽をお楽しみいただけます。（途中入退場自由）



出演者プロフィール



アンサンブル・ノマド Ensemble Nomad
現代音楽アンサンブル

©MakiTakagi

1997年、ギタリスト佐藤紀雄の呼びかけによって集まった無類の個性豊かな演奏家によって結成されたアンサンブル。「NOMAD」（遊牧、漂流）の名にふさわしく、時代やジャンルを超えた幅広いレパートリーを自在に採り上げ、斬新なアイデアやテーマによるプログラムによって独自の世界を表現するアンサンブルとして内外から注目されている。第13回雅楽演奏会～武満徹『秋庭歌一具』で2016年度佐治敬三賞受賞。



伶楽舎 Reigakusha
雅楽アンサンブル

雅楽の合奏研究を目的に1985年に発足。音楽監督・芝祐晴。発足以来、現行の雅楽古典曲以外に、廃絶曲の復曲や現代作品の演奏にも積極的に取り組み、幅広い活動を続けている。CD『秋庭歌一具』は芸術祭レコード部門優秀賞受賞。解説を交えた親しみやすいコンサートを企画し、雅楽への理解と普及にも努め、小中高校生を対象としたワークショップ、レクチャーコンサートなども多く行っている。第13回雅楽演奏会～武満徹『秋庭歌一具』で2016年度佐治敬三賞受賞。

木ノ脇道元
フルート

林憲秀
オーボエ

菊地秀夫、内山厚志
クラリネット

塚原里江
ファゴット

萩原顕彰
ホルン

佐藤秀徳
トランペット

今込治
トロンボーン

花田和加子、川口静華
ヴァイオリン

甲斐史子
ヴィオラ

菊地知也
チェロ

佐藤洋嗣
コントラバス

中川賢一
ピアノ

宮本典子
パーカッション

佐藤紀雄
指揮・ギター

松本努
ステージ・マネージャー

秋庭

宮丸直子
羯鼓

笹本武志
太鼓

谷内信一
鉦鼓

中村かほる
琵琶

野田美香
箏

宮田まゆみ
笙

田淵勝彦
箏

八木千暁
龍笛

岩亀裕子
高麗笛

木魂

石川高、東野珠実、三浦礼美、中村華子
笙

中村仁美、田中康真
箏

角田真美、田口和美
龍笛



クレア・チェイス Claire Chase
フルート

Photo: David Michalek

ニューヨーク・タイムズで「行き過ぎとも言いえるテクニック、幅広いスタイルと鋭い音楽性の持ち主」と賞賛され、現在最も革新的なフルート奏者として注目を集めている。過去10年で100曲以上の新曲を世界初演しており、その大半は彼女のために作曲されたもの。2001年にはインターナショナル・コンテンポラリー・アンサンブル(ICE)を設立。これまでに500以上の演奏会をプロデュースしている。



ニルス・ペッター・モルヴェル
Nils Petter Molvær
トランペット

Photo: Peder Otto Dybvik

ノルウェー出身のジャズトランペッター、作曲家、レコードプロデューサー。1997年にECMから発表したアルバム『クメール』は、異色のサンプリングを多用したテクノやアンビエント色の濃いサウンドで注目を集めた。2001年のレーベル移籍後も、ジャズと電子音楽を融合させたフューチャー・ジャズのパイオニアとして作品を発表し続けている。16年には最新アルバム『BUOYANCY』をリリース。



大友良英 Yoshihide Otomo
作曲・ターンテーブル

©佐藤類

1959年生まれ。ターンテーブル奏者、ギタリスト、作曲家。実験的な音楽からジャズやポップス、NHKの朝の連続小説「あまちゃん」の作曲などの領域まで作風は多種多様。日本はもとより世界各地で多くのアーティストとコラボレーションを行う。2016年には福島県内の中高生と発表したミュージカル「タイムライン」の音楽を担当するなど、様々な年代との音楽作りに取り組んでいる。



福川伸陽 Nobuaki Fukukawa
ホルン

NHK交響楽団ホルン奏者。ソリストとして、リサイタル、協奏曲演奏などを日本各地で行う。「ホルンのレパートリーの拡大」をライフワークとして、作曲家への委嘱活動や、珍しい室内楽の紹介を積極的にしており、吉松隆、藤倉大、鈴木優人他多数の作曲家から作品を献呈されている。



ヤン・バング Jan Bang
エレクトロニクス

音楽家、レコードプロデューサー。ノルウェー南部の町クリスチャンサンで育ち、同郷の音楽家エリック・オノレと音楽活動始める。これまでにモートン・ハルケット、デヴィッド・シルヴィアン、ニルス・ペッター・モルヴェルらと共にアルバムを発表。2005年からはライブリミックスをコンセプトとした即興音楽祭「ブント」を立ち上げ、現代ノルウェーで最も革新的な音楽家の1人として活躍している。



小林沙羅 Sara Kobayashi
ソプラノ

©Nippon Columbia

東京藝術大学卒業。同大学院修士課程修了。2010年よりウィーンとローマにて研鑽を積む。国内外のオーケストラとの共演を重ねるほか、オペラやオペレッタでは持ち前の演技力とダンスの能力を活かし多くの舞台に出演。15年には野田秀樹演出/井上道義指揮『フィガロの結婚』のスザンナ役にオーディションで抜擢され、その演技力と歌唱で観客を魅了した。16年にはセカンドアルバム『この世でいちばん優しい歌』をリリース。



イルマ・オスノ Irma Osno
うた

イルマ・オスノは12歳までケチュア語しか話さないアヤクーチョ県の小さな村に生まれ、羊飼いをしながらその土地の文化、音楽を自然に覚えた。日本に来るまでは伝承音楽の継承者(歌い手、ダンサー)として活動する高校教師だった。現在は大学でスペイン語講師をしながらアンデス文化の紹介をおこなっている。



笹久保伸 Shin Sasakubo
ギター

©Ayaki Hosaka

2004年～2007年までペルーにて音楽研究。イタリア、ギリシャ、ブルガリア、キューバ、チリ、ボリビア、アルゼンチン、ペルーで公演。これまでにCDを26枚リリース。2014年に藤倉大との共作CD『マナヤチャナ』(ソニー)をリリース。秩父前衛派として瀬戸内国際芸術祭2016にて美術作品を発表するなど音楽以外の分野でも活動している。

出演者プロフィール



本條秀慈郎 Hidejiro Honjo
三味線
「エル・システム作曲教室」講師

本條秀太郎に古典／現代音楽を師事し本條秀慈郎の名を許される。津軽三味線を長谷川裕翔に、桐朋学園芸術短期大学で故杵屋勝芳壽に師事。現代邦楽研究所修了。ACCフェローの助成によりニューヨークへ留学。現在坂本龍一と藤倉大の新しいアルバムに参加。これまでに新しい作品だけの自主リサイタル等の開催や、アメリカ、ヨーロッパ、アジア各地での演奏など、三味線音楽の今を追求している。その活動は演出家の故郷川幸雄からも絶賛された。



楢垣智也 Tomonari Higaki
「リュック・フェラーリの部屋」監修

愛知県立芸術大学大学院修了。博士(芸術工学、九州大学)。フランス留学中に現代音楽の作曲とアコースモニウムの演奏で注目される。ハーバード大学、ケルン大学、Futura音楽祭等で招待公演を行う。フランス国立視聴覚研究所音楽研究グループ、回路の詩神、高橋アキ等から委嘱をうける。2枚のソロCD『Mahoroba』(2011)、『囚われた女』(2015)をリリース。第5回国際リュック・フェラーリ・コンクール最高賞(2003)、第18回文化庁メディア芸術祭審査委員会推薦作品(2014)など受賞、入選多数。



蒲池愛 Ai Kamachi
「エル・システム作曲教室」講師

作曲家・編曲家・ピアニスト。国立音楽大学作曲学科卒業。一柳慧に師事。aikamachi+nagie デビューアルバム「Radiant Garden」をリリース。またユニット ANANT-GARDE EYESとしてもアニメ「Angel Beats!」「Charlotte」のサントラなどを手がける。また現代音楽ワークでは、ISCM、ICMC、NIME入選。ライブエレクトロニクスを使ったインタラクティブな作品を発表している。現在数多くのCM音楽、CD楽曲提供、また映画音楽、アニメのサントラなど幅広く活躍中。



村治奏一 Soichi Muraji
ギター

幼少の頃より注目を集め、1997年クラシカル・ギター・コンクール、98年スペイン・ギター音楽コンクール、第41回東京国際ギター・コンクールに続けて優勝。デビューCD「シャコンヌ」は、レコード芸術誌の特選盤に選ばれる。2006年ワシントン・ケネディーセンター公演にて本格的な米国デビューを果たす。メディアへの登場も多くNHK「トップランナー」「J-MELO」を初めTV、ラジオに多数出演。



永見竜生 [Nagie]
サウンドデザイン

マルチ・サウンドクリエイター、レコーディング・エンジニア。「音楽の冒険～藤倉大が考える La Nature」(ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン 2016)にてマルチサウンド・プロジェクト担当。蒲池愛の現代音楽作品のMaxプログラミングを行いISCM、ICMC、NIMEに入選。aikamachi+nagie, ANANT-GARDE EYESとしてCM、アニメ、映画のRecordingからMix、作曲を行う。卓越した音響加工の手腕が評価されている。

www.aikamachi-nagie.com



中川俊郎 Toshio Nakagawa
「エル・システム作曲教室」講師

作曲家・ピアニスト。1958年東京生まれ。桐朋学園大学音楽学部作曲科卒業。作曲を三善晃、ピアノを末光勝世、森安耀子各氏に師事。「Music Today'82」10周年記念国際作曲コンクール第1位。09年サントリー芸術財団主催で「作曲家の個展 2009、中川俊郎」開催。これまでに村松賞、2回の中島健蔵音楽賞(演奏家・作曲家)、多くのCM音楽賞を受賞。日本現代音楽協会副会長、日本作曲家協議会常務理事、お茶の水女子大学非常勤講師。

参加アーティストからのコメント



坂本龍一 Ryuichi Sakamoto

音楽にもまだこんな可能性があったのかと僕を驚かせてくれる友人の作曲家 藤倉大さんが、「ポーン・クリエイティヴ・フェスティバル」という音楽祭を5月のはじめに東京で立ち上げることにした。そこでは彼自身の作品のほか、武満徹やデヴィッド・シルヴィアン、そして僕の最新作や懐かしい作品などが気鋭の演奏家たちによって演奏されることになっている。

「ポーン・クリエイティヴ(略してポンクリ)」とは「人は生まれながらにしてクリエイティヴだ」という意味。この言葉から思い出すのは、ピカソが晩年になって「ようやく子供のように絵を描けるようになった」と喜んだというエピソードだ。彼が本当に子供のように描けたかどうかは分からないが、確かに子供は生れながらに、みな天才だ。そこに創造性の大きなヒントがあると思う。大さんの「ポンクリ」が、音楽やアートの未来に向けて風穴を開ける画期的な試みになることを期待したい。



デヴィッド・シルヴィアン David Sylvian

藤倉大と私がいくつかのプロジェクトで共同作業をしたと思ったのは、われわれの異なる音楽的バックグラウンドがどのように斬新な形でクロスオーバーするかを見てみたいという好奇心からではなく、お互いの作品に対する純粋な愛と尊敬からであった。そして、それ以来、友情がはぐくまれている。私たちはどちらも、これらの作品が生で演奏されるとは思ってもいなかったし、このような形で取り上げられるとは想像だにできなかった。この作品の初演が“ポーン・クリエイティヴ”フェスティバルで行われることに興奮と満足を感じている。

【プレイベント】藤倉大×茂木健一郎対談「脳を“ポンクリ”で解き放て！」

日時

2017年5月3日(水・祝)

15時30分～17時

会場

ギャラリー 2 5階

出演

茂木健一郎、藤倉大

「人間みなクリエイター」という視点から、クリエイティヴの種を探る脳科学者 茂木健一郎が、“Born Creative”(ヒトは生まれながらにしてクリエイティヴだ)という作曲家 藤倉大の発想に共感! 「創造性とは何か?」という謎に満ちた問いをめぐって語り合います。ポンクリ・フェスが何倍も面白くなる?! 脳からウロコの見聞トーク。



茂木健一郎 Kenichiro Mogi

脳科学者/ソニーコンピュータサイエンス研究所 シニアリサーチャー

東京大学理学部・法学部卒業後、東京大学大学院理学系研究科物理学専攻課程修了。理学博士。理化学研究所、ケンブリッジ大学を経て現職。専門は脳科学、認知科学。「クオリア」(感覚の持つ質感)をキーワードとして脳と心の関係を研究するとともに、作家、ブロードキャスターとしても活動。2005年、『脳と仮想』で、第四回小林秀雄賞を受賞。2009年『今、ここからすべての場所へ』で第12回桑原武夫学芸賞を受賞。

